



この町で、この地で笑って老いたい ~そのために今すべきこと~

【まち協だより】

令和6年12月号

電話(FAX) 82-0933

発行: 山上まちづくりの会事務局

【令和6年度 山上まちづくり懇談会 12月6日の報告】

●テーマ「今後の日南病院のあり方について」

12月6日(金) 山上まちづくり懇談会がおこなわれました。役場からは中村町長、角井副町長、青戸教育長ほか4名の職員の皆さん、日南病院からは浜田院長、高見名誉院長、福家管理者ほか3名の職員の皆さんに来ていただき意見交換会をしました。

山上からは「整形外科を充実させてほしい」「待合室で困ったり迷ったりしている人がいるから誰かを巡回させてほしい」などの多くの意見が出されました。病院からは『歯科(入沢歯科医院と協力)』と『総合診療科』新設が提案されました。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

●日南病院で新設予定の総合診療科(総合診療医)とは。

総合診療の医師は、内科だけでなくさまざまな病気に対応できるよう研修されており、地域全体の医療を支え、福祉や行政とも協力して患者さんをサポートします。総合診療科は、診療内容が内科と重なる部分が多いため、内科と同じ外来や病棟で診療を行う予定です。総合診療科を設置することで、小児科診療や訪問診療など、幅広い医療の必要に応えることが出来るようになります。



【令和7年度の集落支援員を募集します】

令和7年度4月から山上まちづくりの会で働いていただける集落支援員を募集いたします。

主に地域高齢者宅訪問や山上地域振興センター屋内外の管理清掃などをお願いしたいと思います。栗饅頭作りの講習会をしますので文化祭などの事業で栗饅頭の製造もお願いいたします。採用にあたっては山上まちづくりの会会長と代表副会長の面接を受けていただき、面接をベースに推薦書を作成して役場に提出します。お問い合わせは山上地域振興センターTEL82-0933までご連絡ください。

【令和6年度 山上まちづくりの会行事予定】

- ・令和7年1月19日 日南町インドアソフトテニス大会
- ・令和7年1月26日 日南町卓球大会
- ・令和7年2月16日 日南町バドミントン大会

※山上地域振興センターは12月28日から1月5日まで休館します。

探究心にかられて

広島へ 12 後編

ある日曜日、マスは、「お天気の良いうちに洗濯物を干してしまいたいから、ちよつとだけ、子どもを見ていてください。」といって、やっと、はいはいを始めたばかりの小さい子どもを夫にたのんで、近くの川へ洗濯物をすすぎにいきました。子どもは、マスをさがして部屋の中をはいまわるので、おちつくことができません。

「困ったな。」と思っていた岩雄は、そのうちに良いことを思いつきました。

自分のしめていた帯をといて、一方の端を子どもに結びつけ、もう一方は、自分の膝の下にはさみこみました。これで、落ち着いて本を読み続けることができます。そのうちに、つい、本のほうに気をとられて膝の力がぬけたので、自由になった子どもは縁側のほうへまっしぐらにはっていきました。

縁側にはやかんをのせたコンロがおいてあり、ちよつとお湯が沸いているところでした。勢いよくはい出した赤ちゃんがぶつかつたから

大変です。「ギャー」という声に驚いた岩雄は、やっと子どもに気がついて、熱湯のかかつた子どもを横だきにして水道口に走っていき、子どもを水につけました。幸いに、火傷はたいしたことはありませんでした。

岩雄は、後にこの時のことを思いかえして、「あの時くらい、おマスさん(妻のこと)が、怒つたことは、後にも先にもなかつた。」と話していたそうです。

広島で勉強をする岩雄の意欲はたいへん大きなものでしたが、三人の幼い子どもを連れての生活は大変で、学校で子ども達を教えながら、その上に勉強をして研究をまとめるということとは、とても無理なことに思えてきました。そこでマスと相談をして、一年経つたとき、マスが子どもをつれて山上に帰るようになりました。

ひとり残つた岩雄は綴方教育つづりかた(今の作文教育)の絞つて研究を深め、広島高等師範学校の他の三名の先生と一緒に、「綴方教授法精義」という本にまとめて出版することができました。

そのころ日本では、綴方の教え方についての研究が始まつたばかりでした。綴方教育についての大変進んだ素晴らしい研究であると認められました。

続いて、この考え方にそつて実際の指導をまとめた「綴り方文例」という本も出版し、明治

四十二年四月、予定通り、山上に帰ることとなりました。

別れにあたつて、指導していただいた先生方に「教えを生かして、十年間かかつて、故郷、山上を理想の郷さとにした。」と、挨拶をする

と、特に小西重直先生は、「必ず、十年後には山上を訪ねて、その実績を拝見しよう。」と、激励されました。

小西先生は、その後、都合で三十年伸びたものの、昭和十一年、山上を訪ねられ、かつての約束をはたされました。

